

ありかわ喜石材新聞



暑い日が続いておりますが、お変わりございませんか。
先月、従兄弟の結婚式に出席のため、家族そろって長崎へ行きました。最近では長男、次男どちらかの試合観戦での旅が多く、家族5人全員での旅は久しぶりで、夏の思い出の一つになりました。長崎市内は夏休みに突入し、港まつりの真っ最中。たくさんの方で賑わっていました。

式場は中心部から少し離れた海沿いの場所で、とても素敵なロケーションで癒されました。そんな中、結婚指輪を運ぶリングボーイの大役を任せられた三男坊・・・親族一同心配しましたが、本番の強さを見せてくれました!(笑)
結婚式後も久々に会う弟家族や親族と食事をし、楽しい一日となりました。



知っていますか? 8月の記念日

●8月28日は「気象予報士の日」です

1994年のこの日に、第1回の気象予報士国家試験が行われました。気象庁以外の方が気象予報を行う際、その予報の技術水準や信頼性を担保するための技能試験として創設され、全国ワカ所で実施されました。



平均の合格率は例年約5%程度と、とても難易度が高いことでも知られています。

■発行者:有川喜(ありかわき)石材店
有川 佑樹 (ありかわ ゆうき)

昭和57年6月 下五島生まれ。
家族は妻、長男(高1)、次男(小6)、三男(2歳)の5人家族、両親も健在。父(社長)のもと仕事をしています。
(一社)全国優良石材店の会 認定店。
(一社)日本石材産業協会 長崎支部所属

海陽高(旧五島商)時代はサッカー部、ディフェンス担当でした。最近では地元ソフトボールチームで汗を流しています。仕事と同じくらい釣り好きです!!



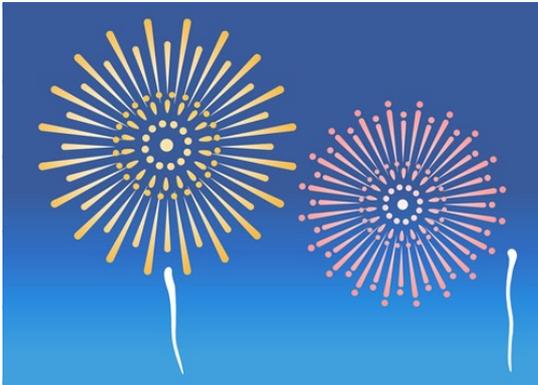
(有)有川喜石材店 TEL:0959-72-2457
長崎県五島市三尾野3-6-1



～お墓・仏事の三二知識～



★ 日本の夏の夜を彩る「花火」



日本の夏の風物詩「花火」。花火の起源は古代中国の狼煙(のろし)にあるといわれ、日本には後の火薬の発明を経て武器として伝わりました。現代まで続く花火大会の始まりは、江戸時代の享保年間に、飢饉や疫病の死者の供養・悪疫退散のために水神祭が催

され、花火が打ち上げられたことにあるとも言われています。その後、華やかなことが好きな江戸っ子たちにも受け入れられて広まっていきました。現在も全国各地で花火大会が行われていますが、そのはじまりとなった花火のように、鎮魂や慰霊の意味が込められた大会もあります。今年は花火の美しさを楽しむだけでなく、故人への思いや平和を願いながら、夜空を見上げてみてはいかがでしょうか？

仏事クイズ Q&A

知っているようで知らない仏事のことや言葉の意味をクイズで確かめてみましょう。



鳥取県三朝町にある三佛寺は、標高900mの三徳山に境内があります。その奥院は垂直に切り立った絶壁のくぼみに建てられていますが、その名称はなんでしょう？

- ① 投入堂(なげいれどう)
- ② 腰掛堂(こしかけどう)
- ③ 岩屋堂(いわやどう)



行者が法力でお堂を手のひらに乗るほど小さくして、岩窟に納めたと言われてています。



まちがいさがし



上下の絵に間違いが3個あります。探してみましょう。

※クイズとまちがいさがしの正解は、表面の一番下の部分をご覧ください。

ご縁を大切にしたいとの思いで、発行しています。